

ひちかいのおうだに

日近醫王谷遺跡群発掘調査現地説明会資料

岡山市教育委員会

時間：平成 17 年 11 月 26 日（土）13:30 ～

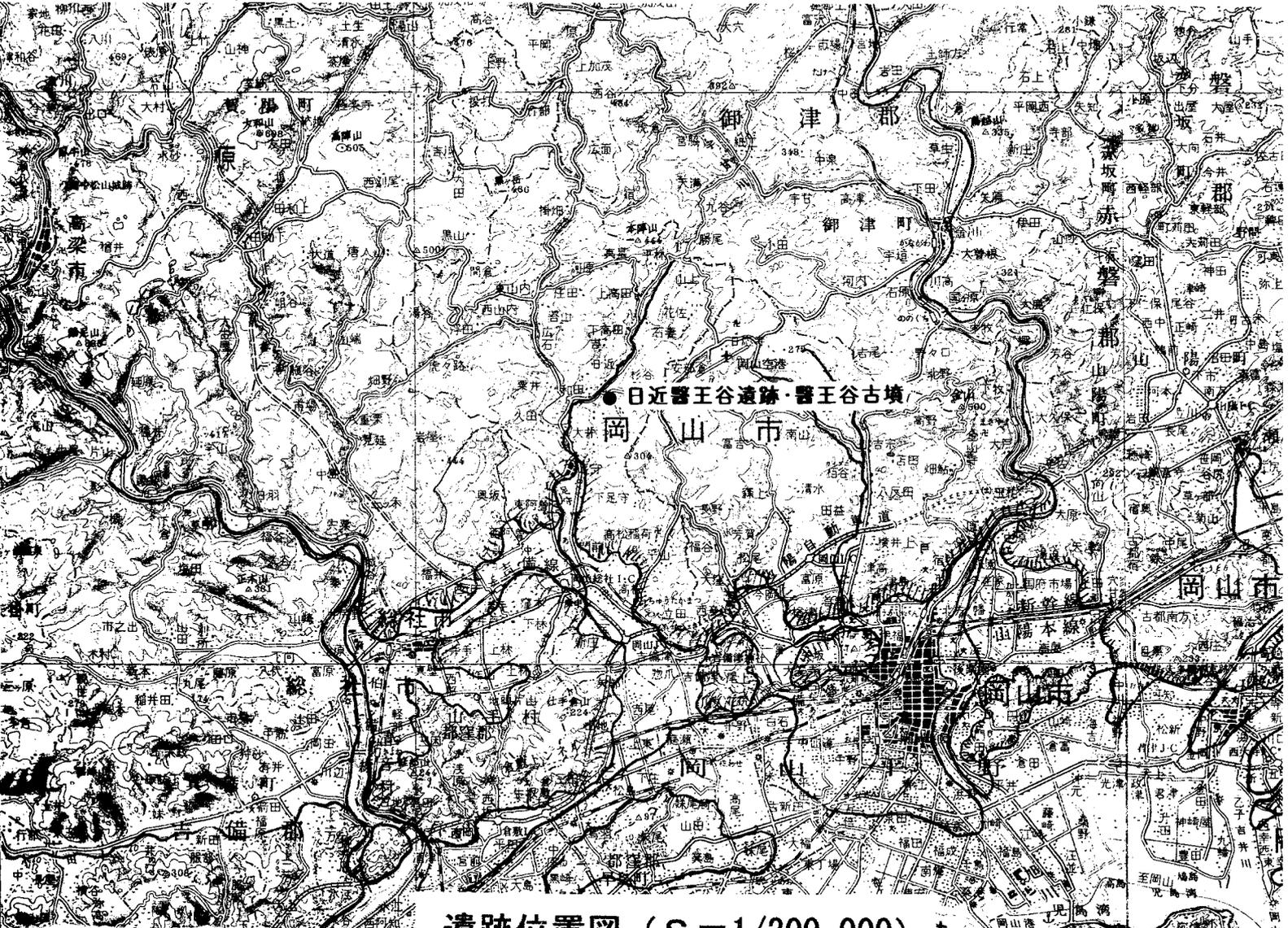
場所：岡山市日近地内

（日近醫王谷遺跡群発掘調査現場）

はじめに

岡山市教育委員会では、農地等高度利用促進事業（ほ場整備）のため、平成 17 年 10 月 5 日から日近醫王谷遺跡群の発掘調査を行ってきました。このたびは調査がほぼ終了したため、これまでの成果を公開することとなりました。

調査の結果、遺跡の方では当初予想された製鉄関連の遺構を確認することはできませんでした。しかし、横穴式石室をもつ古墳の方は石室の全長が 8m にも及び、古墳が所在する日近地区周辺では最大規模のクラスの古墳であることが明らかになりました。



遺跡位置図 (S=1/200,000)

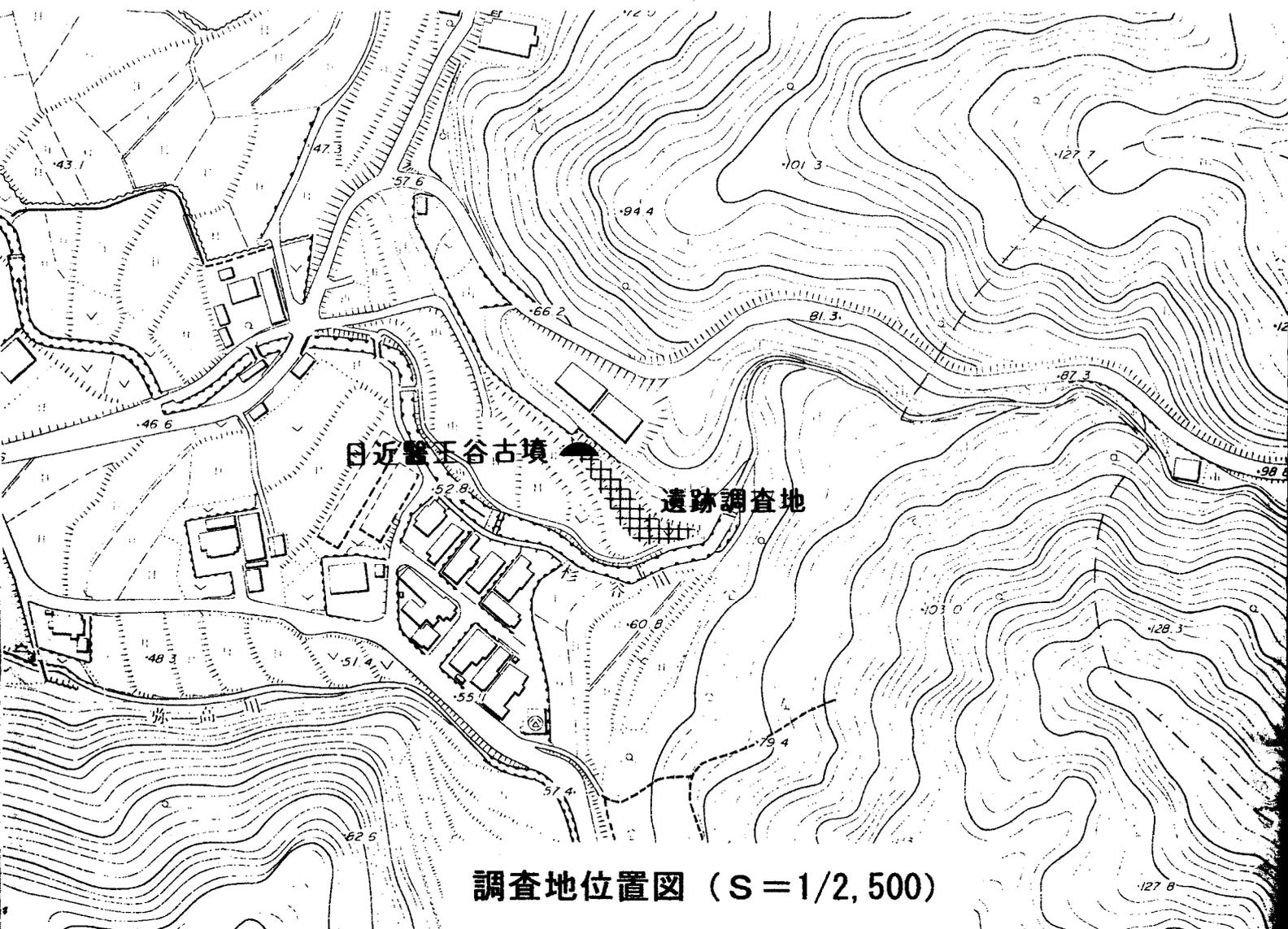
醫王谷古墳

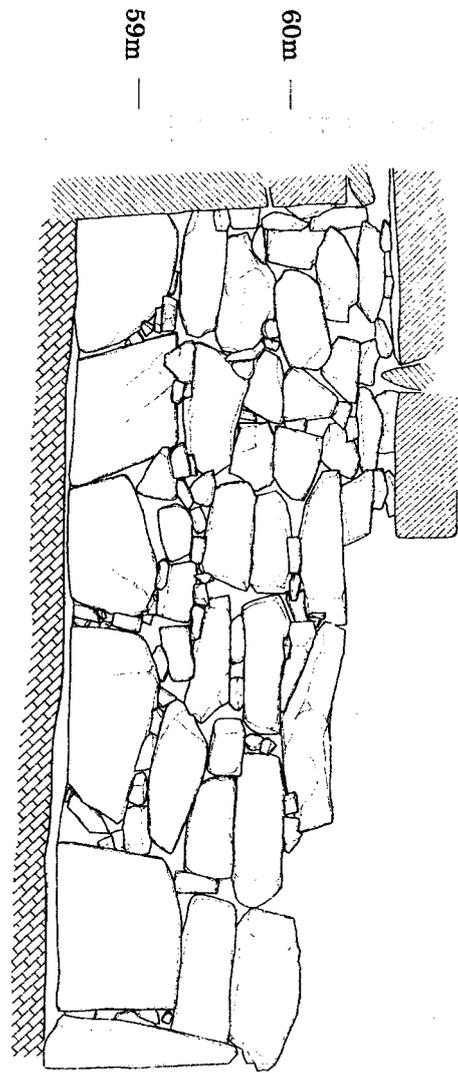
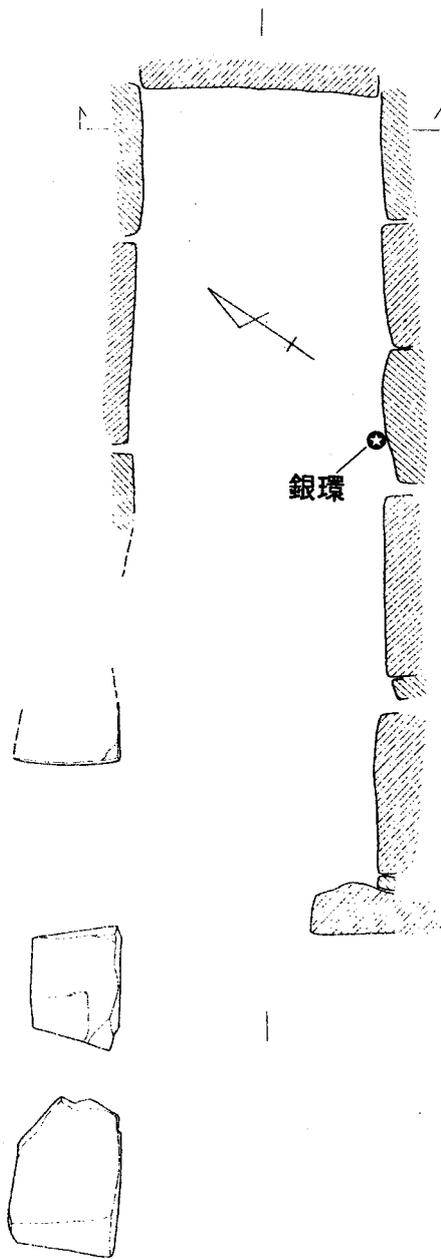
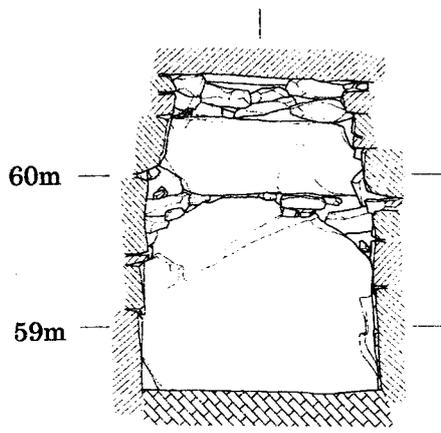
墳丘は後世の開墾によってほとんど削りとられていましたが、わずかに残されていた盛土などから、直径13m程度の周溝をもつとみられる円墳と考えられます。墳丘中央に築かれた横穴式石室も後世の開墾によって一部壊されていましたが、残っている側石の範囲から、少なくとも全長8m、幅約1.8m、床面からの高さ約2.1mの規模であったことが明らかになりました。この石室は古墳の所在する日近地区周辺では最大クラスの規模を誇ります。

石室内は盗掘を受けていましたが、お供えされていたとみられる須恵器の杯・高坏・平瓶・甕・台付椀などの器類20点以上の他、鉄矛・鉄鏃・刀子・鉄釘・鍔などの鉄器が出土しました。とりわけ、1点出土した装身具の銀環は醫王谷古墳に葬られた人物の経済力をうかがわせる興味深い遺物です。

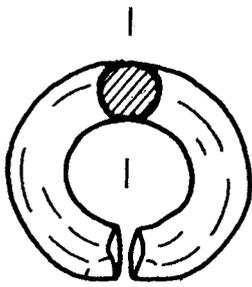
古墳が築かれたのは、須恵器の形から、6世紀後半と考えられ、7世紀初めまで何度か追葬されたようです。

醫王谷古墳の周りからは製鉄の際に捨てられる多量の製鉄炉の炉壁や鉄滓が出土しました。製鉄が行われたのは古墳時代後期以降と考えられます。また、日近川沿いには平地が少ないため、広い水田があったとは考えられません。したがって、醫王谷古墳に葬られた人は水田経営だけでなく、鉄生産者をも支配していた当地域における有力者の一族であったのでしょう。



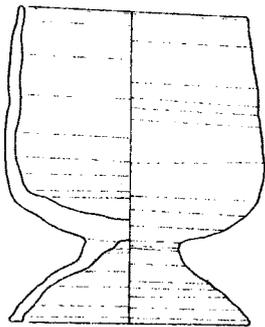


醫王谷古墳 石室 (s=1/50)



銀環 (S=1/1)

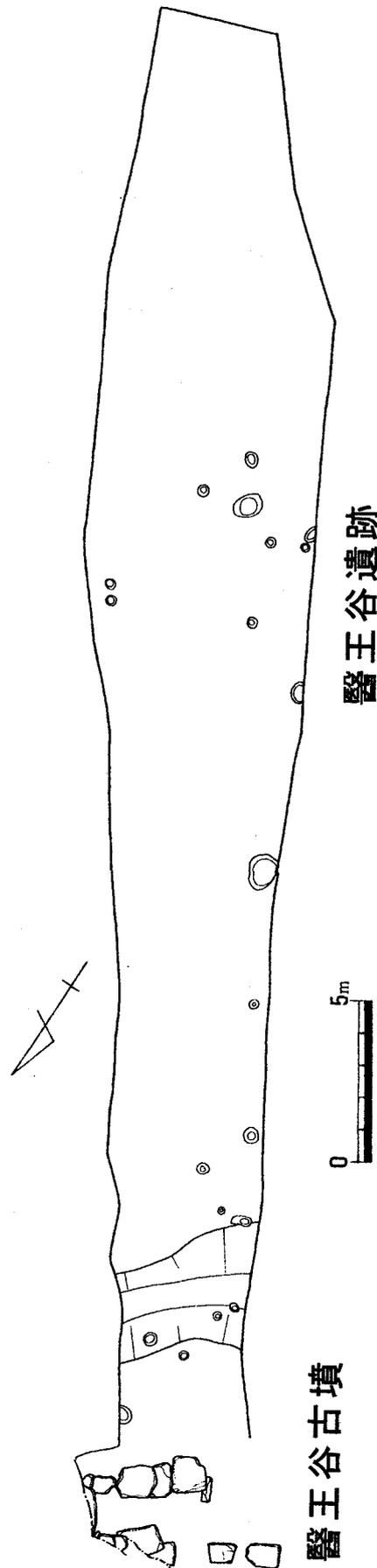
古代のイヤリングです。
銅に銀メッキをしています。



須恵器 台付椀 (S=1/3)



須恵器 杯身 (S=1/3)



醫王谷遺跡

遺跡は後世の耕作によってかなり削られ、地山には大きな石が含まれていたため、見つかった遺構は数基の^{ところ}土壌だけでした。遺物は弥生時代後期の弥生土器片、中世の土師器片、炉壁や鉄滓などが整理箱1箱分ほど出土しました。製鉄跡は見つかりませんでしたが、灰層があることから、近くで製鉄が行われていたのでしょう。